シンポジウム

◆ 知的創造と知的財産:交錯の時代の法制度・科学技術・イノベーション ◆

【概　要】

本シンポジウムでは、「知的創造と知的財産」という本大会の主題のもと、これらの複雑で相互依存性の高い関係性を探究する。人工知能（AI）や大規模データが創出する新たな領域は、人間の知能を超越する可能性を秘めている。これらの進展は人と AI の共創に関する新たな視点を提供し、知的財産のパラダイムをも一新するだろう。

その象徴は、生成 AI やビッグデータに基づく知的創造である。これらが知的財産の領域と交錯し影響することにより生じる機会や脅威、知的財産戦略の新展開について議論したい。さらに、これらの変化が科学技術政策、大学・公的研究機関の知的財産ガバナンス、そして人材育成・教育にどのように組み込まれるべきかについての洞察を得たい。更に、倫理、法律、社会的影響（ELSI）と責任ある研究・イノベーション（RRI）の観点から、知的創造が社会に与える広範な影響、それらが知的財産の保護と管理にどのように反映されるべきかについて検討したい。

上述の趣旨を踏まえ、パネリスト各氏による講演をもとに、特に下記の論点についてパネルディスカッション形式にて議論する。

- 機会と挑戦：生成 AI やビッグデータが提供する、新しい機会、脅威、戦略
- 新技術の影響：AI や大規模データが知的財産のパラダイムをどのように変え、人と AI の共創の新視点を提供するか
- 大学と教育：これらの技術変化が、大学・公的機関の知財マネジメント、人材育成にどう組み込まれるか
- 倫理と法制度：知的創造の広範な社会的影響と、それが知的財産の保護・管理にどう反映すべきか
- 企業・組織境界を越えた AI・データガバナンス・科学技術政策をどのように展望するか

■パネリスト（五十音順）

足立 昌聰 氏　（株式会社 JMDC 上席執行役員兼 CDPO）
笹原 和俊 氏　（東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授）
中川 裕志 氏　（理化学研究所 革新知能統合研究センター チームリーダー）
渡部 俊也 氏　（日本知財学会 会長・東京大学 未来ビジョン研究センター 教授）

■モデレータ

清野 千秋 氏　（特許庁 総務部 企画調査課 知的財産活用企画調整官）

シンポジウム

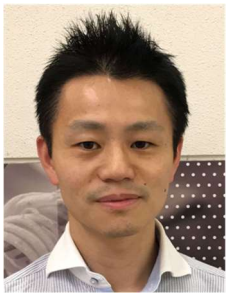
◆ 知的創造と知的財産:交錯の時代の法制度・科学技術・イノベーション ◆

【パネリスト略歴】

「データを生成する者とデータで記述される者／もの
～誰がデータ流通を『コントロール』するのか」
足立 昌聰 氏（株式会社　JMDC　上席執行役員 兼 CDPO）

東京大学工学部システム創成学科卒（2007）、
同大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了（2010）。
外国法事業共同ジョーンズ・デイ法律事務所、
特許庁法制専門官、LINE 株式会社（現・LINE ヤフー株式会社）を経て現職。
一般社団法人情報法制研究所（JILIS）上席研究員、一般社団法人情報処理安全確保支援士会（JP-RISSA）理事。弁護士、弁理士、情報処理安全確保支援士。MCPC IoT プロフェッショナル。

「生成 AI 時代の集合知と集合愚（仮題）」
笹原 和俊 氏（東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授）



福島県生まれ。
2005 年東京大学大学院総合文化研究科修了。博士（学術）。
理化学研究所 BSI 研究員、日本学術振興会特別研究員 PD、
名古屋大学大学院情報学研究科講師を経て、現在、
東京工業大学環境・社会理工学院准教授、国立情報学研究所客員准教授（兼任）。
2009 年カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員、2016 年インディアナ大学ブルーミントン校客員研究員。2016 年～2020 年 JST さきがけ研究者（兼任）。専門は計算社会科学。
主著に『フェイクニュースを科学する 拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』（化学同人）、『ディープフェイクの衝撃 AI 技術がもたらす破壊と創造』（PHP 研究所）がある。

シンポジウム

◆ 知的創造と知的財産:交錯の時代の法制度・科学技術・イノベーション ◆

「生成 AI と AI エージェント」

中川 裕志 氏（国立研究開発法人理化学研究所
革新知能統合研究センター　チームリーダー
/東京大学 名誉教授）

1975 年　東京大学工学部卒業
1980 年　東京大学大学院卒業（工学博士）
1980～1999 年　横浜国立大学工学部
1999 年～2018 年　東京大学情報基盤センター教授、
情報理工学系研究科数理情報学専攻兼担
2017 年～現在　理化学研究所・革新知能統合研究センター

（著書）
機械学習工学講談社、教養としてのデータサイエンス講談社
裏側から視る AI 近代科学社、機械学習（東京大学工学教程）丸善

人間中心 AI 社会原則　内閣府、
IEEE Ethically Aligned Design, First Edition,

「AI の進歩がもたらす知財制度の課題：
イノベーションエコシステムの観点から」

渡部 俊也 氏（東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
/ 日本知財学会 会長）

1984 年東京工業大学無機材料工学専攻修士課程修了、1994 年同大学無機材料工学専攻博士課程修了(工学博士)。民間企業を経て 1998 年東京大学先端科学技術研究センター情報機能材料客員教授。2001 年より同センター教授、2023 年現在
東京大学　執行役・副学長、未来ビジョン研究センター教授（副センター長）、産学協創推進本部本部長、工学系研究科技術経営戦略学専攻教授（兼）、一般社団法人日本知財学会理事（会長）、研究・イノベーション学会会員、知的財産戦略本部員、内閣府知的財産戦略本部構想委員会座長　経済産業省産業構造審議会産業技術環境分科会研究開発・評価小委員会委員、経済産業省国立研究開発法人審議会委員（NEDO 部会長）など。

シンポジウム

◆ 知的創造と知的財産：交錯の時代の法制度・科学技術・イノベーション ◆

【モデレータ略歴】

清野 千秋 氏
（特許庁 企画調査課 知的財産活用企画調整官）

北海道大学 薬学研究科 修士課程修了。
2001 年に特許庁に入庁し、医療・生命工学分野の特許審査・審判や、知財行政関係業務に従事。
2020 年から３年間、東京工業大学に出向し、研究・産学連携本部にてスタートアップ支援を経験。2023 年４月より現職にて、大学・スタートアップにおける知財活用や知財人材育成の支援に携わる。